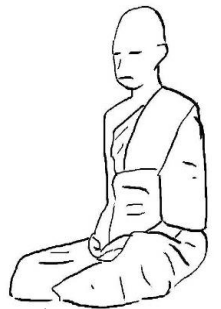


意識

一七〇〇年以
上も昔、瞑想を
主に行う瑜伽



行派の人々が、心を深く見つめていきました。この瑜伽行は
今流行りのヨガの語源です。

仏教の縁起の思想を認識作用で説明しようとしたので
す。見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触る。いわゆる五感と言わ
れるものです。それに第六感、意識でいろいろと判断をす
る。時に、意識と五感は現実とずれることがあるようです。

道路に落ちている縄をマムシと勘違いする。

これらは、わかりやすい認識作用ですが、瑜伽行派はさら
に無意識の部分を追求めます。様々な思い込みをおこす
第七感末那識、経験の貯蔵庫である第八感阿頼耶識。

時々、事件の判決で責任能力の有無が大きなカギとなる場
合があります。意識して行動したのか、無意識で行動したの
か…。無意識の場合、無罪となる事があります。それは、あ
なたが起こした事件ではないからということですが、仏教
の立場では、無意識で行ったことでもあなたが行ったこと
と受け止めます。これは何も事件を起こした犯人だけが当
てはまるものではありません。



我々の行動にも無意識に行う事がありま
す。つまり、あなたが思うあなた以外もあなた
であり、私が思う私以外も私なのです。私以外
私じゃないわけではないのです。あれ？どっ
かで聞いたような？？

東京への車中

昼「こんな所すか」

「たまたま、いい」

夜「夜景もホント

任才たい」

同じ風景、お休耳

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用
語を紹介して
います。

以心伝心

「あいつとは以心伝心。言わなくてもわかるだろう
…」わかっていない場合が多いです。

こころを以て、こころに伝える。主に、禅で用いら
れる言葉です。真理は、言葉や文字で伝えられるもの
ではなく、体験によって伝えられるものであることを
四字熟語で表しました。しかし、これはなかなかでき
ることではありません。曾我量深という仏教学者は、

言葉のいらぬ世界が仏の世界、言葉の必要なのが
人間界、言葉の通用しないのが地獄

と言われました。

言葉がなくてもわかりあえるものは仏様に限って
のこと。人間の世界で、言葉がなくなればそれはすな
わち地獄なのです。地獄の者たちには耳がないよう

す。言うことを聞かない、聞いたふり
をする、右から左へ抜けていく。「あな
た！いつも靴下を脱ぎ散らかすんじや
ない」私も地獄一定住みぞかし

